

都中数研会報

第149号

編集 東京都中学校数学教育研究会

「私たち教員も協働的な学びを」

東京都中学校数学教育研究会会長 柳澤 忠男

1 東京都中学校数学教育研究会の活動

本研究会(以下都中数)の会員は、会則によれば「東京都公立中学校の教員をもって構成する」となっています。各区市の教育研究会数学部会を通じて、東京都の中学校数学科教員全員がその構成員となっている団体です。都中数が指導法や指導内容についての研究を継続的に進めるために設けている8つの委員会に属している会員以外の方は、所属意識があまりないかもしれません。私自身も委員会活動に熱心に取り組んできた会員ではありませんが、多くのみなさんと同じように、教壇に立っていた頃は東京都の中学校数学科の教員として、生徒たちに数学の面白さを伝えたい、数学的に考えることよさを感じさせたいと、指導の改善を模索していました。都中数は、そのようなみなさんが、指導方法等の研究を通じて、技量を高め合う場を提供し、お互いに指導上課題となっていることを出し合って、中学校数学教育の向上を図っていく組織です。ぜひ、多くのみなさんが各委員会の活動に参加していただいたり、8月の東京都教職員研修センターと共催で行っている研修会や2月の研究発表大会にもお出かけいただいたりして、教員同士の数学指導に関する協働的な学びを進めていただきたいと思います。特に、数学の教員になったばかりの1年目や2年目の教員のみなさんや経験年数の浅い若手教員のみなさん、教科の力量を高めることに集中できるのは、若いうちです。経験年数が増してくると、分掌の仕事や主任としての仕事など、教科以外の仕事が多く降りかかってきます。まだ、研究会に属するのは早いなどとは考えずに、早くから教科の研究にかかわってみてください。私たち数学教員は、数学が教えたくて教員になったのですから。

委員会に属している会員以外のみなさんに、広く都中数の活動を知っていただけるのは、この会報をお読みいただく時と、毎年夏休み頃に各区市の数学部会を通じてお願いしている「数学教育推進にかかわる実態調査」のアンケートにお答えいただく時ではないかと思います。昨年度の調査では、研究発表大会の場でも結果を報告させていただきましたが、「主体的に学習に取り組む態度」

の評価方法や、生徒のICTを活用した授業の実施に関して多くの学校で課題となっていることが分かりました。今後も各先生方が工夫していることや効果的な指導事例の情報を出し合う場を提供し、東京都の数学教育の向上につなげられればと思っています。

2 PISA調査から見える日本の数学教育の課題

昨年12月に公表された国際的な学力調査PISA 2022の数学的リテラシーの結果は、日本は参加81カ国・地域の中で5位、OECD加盟37カ国中1位と世界トップレベルでした。数学的リテラシーに関する質問調査でも、「数学の授業の規律ある雰囲気」指標はOECD加盟国中1位、「数学の授業における教師の支援」指標はOECD加盟国中8位で、日本の授業が規律ある雰囲気の中で行われ、生徒は教師の適切なサポートを受けていることが分かります。一方、日本の生徒は実生活における課題を数学を使って解決する自信が低いことや数学を実生活における事象と関連付けて学んだ経験が少ないことがOECD諸国の平均との比較から分かります。また、日本の数学の授業では、数学的思考力の育成のため、日常生活とからめた指導を行っている傾向がOECD諸国の平均に比べて低いことも明らかになりました。私たちには、これらの課題についても解決を図るべく、さらに授業改革、指導方法の改善に取り組んでいくことが求められています。協働的な学びにより私たちの指導力の向上に努めましょう。

目次

会長挨拶	1
講演会要旨(5月11日)	2
各委員会の活動計画	3~4
数学指導技術向上研修会のご案内	5
全国算数・数学教育研究(大阪)大会	6
関東甲信静数学教育研究(静岡)大会	6
地区だより(荒川区・西東京市)	7
総会報告	8

ICTを活用し個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた数学学習

東京女子体育大学 教授 石出 勉

1 令和の日本型学校教育

令和3年1月の中教審答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』では個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められている。

個別最適な学びは、次の2つの視点で整理される。生徒一人一人の特性や学習進度に応じた柔軟な指導方法・教材等の提供を目指した「指導の個別化」と、子供の興味・関心等に応じ、一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し、子供自身が、学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」である。

協働的な学びは、探究的な学習や体験活動を通じ、子供同士、あるいは多様な他者と協働しながら学ぶ機会を設定する。そこでは他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の作り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成したい。

従来の学びはペーパーテストで測られることが多く、一つの「答え」をいかに早く正確に導き出すかを求められていた。

これからの社会においては、多様な考えを受け入れ、他者参照や自己調整が求められている。したがって、学校の授業においても、授業観・評価観の転換が強く求められる時期に来ていると言えよう。

これまでの「授業」という常識を一旦アンラーンし、より良い学びを実践するという視点で整理し直すことが求められる。

2 一人一台端末

GIGA端末が日本中の小中学校に配られてから4年が経とうとしている。そもそもこの一人一台の端末はコロナ対策と捉えられがちだが、実際はコロナ以前に予算化されていたもので、ちょうど時期が重なったために誤解も生じている。そのためコロナ感染症への対応が落ち着きを見せている現在の状況では、すっかり

使用されなくなっている学校もあると聞く。文部科学省では毎年为全国学力学習状況調査において、「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか」と聞いているが、「ほぼ毎日」と回答は30%に満たない現状がある。(令和5年度調査)

また、生徒と教師の認識の差も指摘されている。

3 活用事例

ICTを活用した個別最適な学びというと、AIに制御されたドリル問題を黙々と解く場面を想像する方も多いただろう。しかし、それだけが個別最適ではない。協働的な学びとの一体的な充実を目指すのなら、教室での授業に組み込む場面は多様に考えられる。

自分のペースで練習する時間を十分に確保する。自己の学習成果を振り返ることができる環境を用意する。自分の解き方だけでなく、他人の考えの途中経過も常に参照できる。このように、これまでの授業を少し見直し、生徒の自己決定の機会を多く作りたい。「自己調整」と「他者参照」によって学習者自身が学びを最適化し、失敗が許容される安心感を確保したいものである。

4 VUCAな時代の学び

現代は「VUCA(予測困難で不確実、複雑で曖昧)な時代」と言われるそうである。(OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来エージェンシー、資質・能力とカリキュラム(白井 駿 著)ミネルヴァ書房(2020))何を学ぶかが問われた昭和の時代から、どのような力がついたかを問うた現行の学習指導要領。そして、結果を予測、自らの目標達成に向けて計画、能力や機会を評価、逆境を克服することが求められる時代へと進んでいる。

我々教師に求められる役割も変化していることを自覚し、授業を見直してみることが大切である。

令和6年度 各委員会の活動計画

数式委員会

「主体性を育てる指導の工夫」

～自ら考えを表現できる生徒の育成～

本年度は、このテーマで、①生徒に考えさせていく。②生徒に自分の言葉で説明させていく。③生徒に予想させ自分の言葉で説明できるようにする。授業実践の研究をしていきます。

『整数の性質を文字式で説明する課題』に対して、生徒自ら発展した問題を作り、性質を考え、予想していく。授業展開、言葉のかけ方、教師の関わり方次第でどう生徒が変わって自らの考えを表現できるようになるか、研究しています。

委員会は、基本的に月に1度不定期に開いています。昨年度から月1回のリモート開催をしています。長い休みにはみんなで集まることもできました。研究テーマの内容や数式領域だけに拘らず、日々の授業に使える教材の提案や新学習指導要領や新しい評価に関する情報交換なども、積極的に行っています。

(文責 神津島村立神津中学校 伊藤 晴美)

図形委員会

「今年度の活動について」

図形委員会では、これまで図形領域における学習指導案の検討や授業研究、生徒の実態調査等の分析を取り組んできました。昨年度は三角形の合同条件を導く以外の論証問題も書けるようになるために、「型にとられない”証明問題の図形指導」をテーマに、第2学年を対象とした指導案検討を行い、複雑な証明問題にも対応できる力を身に付けさせる指導の工夫改善を目指すことをねらいとしました。今年度は昨年度の内容をさらに充実させるため、各教科書の内容分析を行った上で、段階的にレベルアップを図るための問題精選を行い、より発展的に図形の証明指導を徹底できるよう、調査問題を作成し、その結果に基づいて委員全員でアイデアを持ち寄り、意見を出し合いながら、よりよい指導案を作成し、授業研究を行っていきます。

図形指導をはじめ、数学教育への興味や関心をお持ちの皆様ぜひご参加いただき、委員会の活動を活発にしていだけたら幸いです。

(文責 杉並区立向陽中学校 加藤 尚代)

教育課程委員会

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導」

本委員会では、毎月1回の定例会を基本に活動しています。単元や領域にこだわらず、生徒が躓いていることや、教師が授業を行う上で困っていることを取り上げて研究を行っています。

この数年は、主体的・対話的で深い学びをテーマにして研究をしています。授業の中に、主体的な学び・対話的な学び・深い学びを実現するための間を設定し、それに則った授業を実践し検討をしています。昨年度は、数と式領域から文字を用いて数の性質を説明する場面、関数領域から反比例のグラフをかく場面において指導案を作り授業を行いました。主体的に対話的に学ぶ様子は見られたものの、そこから深い学びに繋げる点に於いては課題が残っていました。今年度は、昨年度の指導案を改定して授業をすることにより、深い学びへと繋げる指導の示唆を得たいと考えています。

都中数のホームページに定例会の開催案内を掲載しています。一緒に学びたいという方は、是非ご一報ください。多くの先生方のご参加をお待ちしています。

(文責 大田区立羽田中学校 諏佐 佳典)

確率統計委員会

「主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法について」

私たちはこれまで、主に確率統計分野における教材を考え、実践してきました。昨年度は、これまでの研究を振り返る中でPPDACサイクルを意識した授業案を提案し、統計分野における研究を深めました。

今年度は、主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法として、「生徒の起床時刻」をテーマに、生徒から出た「気づき」を大事にする授業案を提案できればと考え、研究を進めています。

確率統計委員会のメンバーは、若手、中堅、ベテランと年齢層が厚く、地域も区部、市部、中等教育学校、大学附属中学校と多岐にわたります。なかには、小学校や高等学校での勤務を経験した方もいらっしゃいます。それぞれの学校事情を共有しながら、多くの学校で実践できる授業や教材について考えていきます。また、今年度は統計分野における研究授業や講演会等の情報を共有し、統計分野に関する知識や指導方法を深めていきたいと考えております。少しでも興味をもたれた先生がいましたら、ぜひ一度お越しください。ご連絡をお待ちしています。

(文責 杉並区立神明中学校 菅 亮太)

評価委員会

学習指導要領における評価の在り方について(7)～ループリックを用いたインタビュー形式での評価の試行(2)～

今年度も、昨年度に引き続き生徒の学習状況を「記述」以外で集める方法として、インタビュー形式で生徒の学習活動を評価する方法を研究します。評価するためのループリックを事前に作成し、それに基づいて生徒の具体的な学習活動を「評価」していくことを考えていきます。本委員会では「評定」のための「評価」ではなく、「指導と評価の一体化」という視点で「評価」を考えていきたいと思っています。

都中数のホームページに開催の案内を出していますので、少しでも興味や関心を持たれた先生がいましたらご覧ください。一緒に学んでいきましょう。

(文責 足立区立第十四中学校 湯浅 浩)

導入法委員会

「誤差や近似値」指導における実践例

本委員会では、さまざまな単元や領域において、日頃の授業に役立つ教材づくりを目指し、授業実践を中心とした研究を進めている。

今年度は、第2学年図形分野における論証指導の導入について研究する。この内容について、学習指導要領では、「第2学年においては、数学的な推論の過程を簡潔・明瞭に表現する力を養うことが指導の大切なねらい」とされており、「必要以上に証明の書き方に拘ることをせず、第3学年までを見通し、次第に簡潔・明瞭なものとなるように、段階的に指導していくように配慮する」ともある。しかし実際の指導においては、三角形の合同条件を利用した証明の書き方などに指導の重点がおかれることがしばしばある。本委員会では、類推・帰納と演繹それぞれの良さや、証明することの必要性などを生徒が実感しながら、本単元以降も数や図形の性質を証明したり、証明を評価・改善したりできるように、単元の目標に重点を置いた指導の工夫を提案する。また、「指導と評価の一体化」を推進するにあたって、第Ⅲ観点を中心とした評価の在り方について、昨年度に引き続き各校の情報交換をしながら議論していく。

(文責 世田谷区立緑丘中学校 石川 寛樹)

関数委員会

1次関数の値の変化の割合の指導と評価

昨年度は、中2「変化の割合の素地的な学習」について、変化や対応のようすを考察する活動を通して、変化の割合の概念・意味を深めさせることを研究のねらいとして、指導案を作成し、昨年9月に研究授業を行いました。

本年度は、「1次関数の値の変化の割合の指導と評価」について、変化の割合の概念や意味を理解させる指導を提案するだけでなく、以前に関数委員会で提案した関数の評価についても、3観点になったことを踏まえ、新たに作成をしました。また、評価問題の作成を行い、実施した結果も考察しました。また、2学期には、作成した指導案の研究授業も行っています。

今後はこれまでの研究をもとに、関数の指導計画をよりよいものに改善したいです。また、指導にICT機器や教具の利用を取り入れつつ、数学的に解決できる能力を養えるような指導計画の改善や指導案の作成を行い、実証的に研究を進めていきたいです。都中数のHPにも研究成果を掲載しています。ぜひ御覧ください。

(文責 江東区立深川第三中学校 菅田 圭一)

指導法委員会

今年度は休会とし、他の委員会に参加し、合同で研究を進めていくことを検討しております。

(文責 足立区立千住青葉中学校 古庄 恵実)

令和6年度 数学指導技術向上研修会を開催します

数学指導技術向上研修会は今年で22回を迎えます。本研修会は、各学校の教育活動の充実に資するため、数学科教員の指導技術、専門性の向上を目指し実施しています。特に令和元年度からは東京都教職員研修センター（以下、研修センター）との連携研修となり、都立高校・都立特別支援学校からの参加者も含め、若手教員だけでなく中堅教員の参加も増えています。

昨年は、事前動画による研修を実施し、講師の先生の講義を視聴した上で、各自が指導案を作成し、8月に対面式で開催しました。全体会の後、21名の受講者は7班のグループに分かれ、持参した指導案を元に模擬授業や協議をし、助言者からの指導・助言を行いました。そして最後の全体会では講師の先生から、授業改善についてご指導をいただき、事後に実施した研修センターによる受講者アンケートでは全ての項目で肯定的意見が100%となりました。

今年度も以下の要領で研修会を実施いたします。

なお、研修センターを通じた募集のみで1回目の募集はすでに終了しています。追加の募集の有無については、マイキャリアノートでご確認ください。

- 1 研修名** 数学科指導スキルアップ講座
－ 中学校数学科 授業づくりの基礎・基本－
[研修番号 4211]
- 2 対象** 東京都公立中学校及び特別支援学校の若手から中堅の数学担当教員
- 3 主催** 東京都中学校数学教育研究会
東京都教職員研修センター
- 4 実施方法等**
動画視聴 令和6年6月下旬～7月中旬
(指導案作成に向けて他)
第1回 令和6年8月20日(火)
13:30～16:30
会場:新宿区立西早稲田中学校
ゼミ形式で数人を1グループとして、各グループに助言者がつきます。
- 5 募集人数** 50名
- 6 内容** ・受講者は本人の課題に基づいた学習指導案を事前に作成する。

- ・受講者を少人数のグループに分け、各グループで学習指導案を検討・協議する。
- ・各グループで講師から指導・助言を受ける。

7 講師 東京都中学校数学教育研究会のOB・現役役員・各委員会委員等

都中数の委員会には誰でも加入できます

都中数では研究部の中に8つの委員会があり、数学指導に生かせる実践的な内容を計画的に研究しています。詳しくお知りになりたい方は、次の各委員会の代表者までお気軽にご連絡ください。

- 数式委員会(会場:府中市立片町文化センター他)
伊藤 晴美 先生
(神津島村立神津中学校 04992-8-0585)
- 図形委員会(会場:江東区立亀戸中学校)
加藤 尚代 先生
(杉並区立向陽中学校 03-3302-2989)
- 教育課程委員会(会場:豊島区立駒込中学校)
諏佐 佳典 先生
(大田区立羽田中学校 03-3744-3351)
- 確率統計委員会(会場:杉並区立神明中学校他)
菅 亮太 先生
(杉並区立神明中学校 03-3333-7428)
- 評価委員会(会場:台東区立御徒町台東中学校)
湯浅 浩 先生
(足立区立第十四中学校 03-3899-1191)
- 導入法委員会(会場:世田谷区立緑丘中学校)
石川 寛樹 先生
(世田谷区立緑丘中学校 03-3303-7331)
- 関数委員会(会場:北区立堀船中学校)
菅田 圭一 先生
(江東区立深川第三中学校 03-3641-5948)
- 指導法委員会(現在は休会中)

また、委員会のこと全般についてお聞きになりたい方は、研究部委員会担当役員 江東区立深川第三中学校 指導教諭 菅田 圭一または、研究部長 荒川区立第九中学校長 奥秋 直人までご連絡ください。皆様からのご連絡をお待ちしています。

第106回 全国算数・数学教育研究(大阪)大会

1. 研究主題 「すべての子どもが輝く算数・数学教育をめざして－個の力を伸ばす教育内容・方法の構築－」

2. 日 程 令和6年7月30日(火)～8月2日(金)

3. 会 場 大阪府立国際会議場

4. 概 要

7月30日(火)

○講習会(中学校)

奈良教育大学 近藤 裕 先生

島根県立大学 齊藤 一弥 先生

文教大学 永田 潤一郎 先生

7月31日(水)

○講習会(中学校)

大阪教育大学 寺島 浩介 先生

尾道市立因北中学校 柏原 広雄 先生

愛知教育大学 青山 和裕 先生

8月1日(木)

○開会式

○記念講演

筑波大学 三谷 純 先生

○シンポジウム

○部会講演(中学校)

国立教育政策研究所 水谷 尚人 先生

8月2日(金)

○分科会 I、II

○閉会式

5. 申し込み

全国大会Webサイト

<https://www.sme.or.jp/conference/national/>

6月30日(日)締切

令和6年度 東京都中学校数学教育研究会 役員

会 長 柳澤 忠男(板橋区立板橋第二中学校)

副会長 南 英昭 ……庶務部長
(文京区立第十中学校)

〃 奥秋 直人 ……研究部長
(荒川区立第九中学校)

〃 高林 敏彦 ……調査部長
(世田谷区立奥沢中学校)

〃 梶原 孝恒 ……広報部長
(東久留米市立大門中学校)

〃 青海 正 ……会計部長
(大田区立志茂田中学校)

監 事 福沢 俊之(台東区立御徒町台東中学校)

〃 榎本 圭志(国分寺市立第一中学校)

庶 務 塚本 桂子 ……庶務事務局長
(新宿区立西早稲田中学校)

〃 井上 隆 ……庶務副部長
(清瀬市立清瀬第三中学校)

〃 金栄 晃弘(台東区立忍岡中学校)

〃 堀 孝浩(中野区立緑野中学校)

〃 吉田 裕行(世田谷区立砧南中学校)

〃 諏佐 佳典(大田区立羽田中学校)

研 究 西野 和之 ……研究副部長
(江東区立亀戸中学校)

〃 夏井 真一(品川区立八潮学園)

〃 杉田 善明(葛飾区立葛美中学校)

〃 川口 典子(北区立桐ヶ丘中学校)

〃 秋葉 養(江戸川区立葛西中学校)

〃 菅田 圭一 ……委員会担当
(江東区立深川第三中学校)

調 査 蓮沼 喜春 ……調査副部長
(小金井市立緑中学校)

〃 佐藤 太(大田区立糎谷中学校)

〃 植木 清(江戸川区立葛西第二中学校)

〃 林 謙太郎(葛飾区立亀有中学校)

〃 和田 剛(荒川区立第九中学校)

広 報 村田 浩文 ……広報副部長
(板橋区立赤塚第一中学校)

〃 山本 周一(府中市立府中第一中学校)

〃 上村 諭(中野区立第七中学校)

〃 齋藤 真弓(北区立滝野川紅葉中学校)

〃 菅原 亮 ……HP担当
(稲城市立稲城第一中学校)

会 計 石綿 健一郎 ……会計副部長
(世田谷区立深沢中学校)

〃 西川 慶介(世田谷区立烏山中学校)

参 与 秋野 宏之(国分寺市立第二中学校)

〃 小島 宏一郎(大田区教育委員会)

第79回 関東甲信静数学教育研究(長野)大会

1. 大会主題 「数学的に考える資質・能力の育成－よりよい自らの人生や社会の創出に向けて－」

2. 日程 令和6年11月8日(金)

3. 会場 ホクト文化ホール

4. 記念講演 9:00～10:30

日本数学教育学会会長・筑波大学教授

清水 美憲 先生

○公開授業・授業研究会・分科会 11:20～17:00

大会Webサイト(令和6年6月まで)

<https://sites.google.com/view/2024kanburo/>

(令和6年7月からは大会サイト稼働予定)

都 中 数 地 区 だ よ り

<荒川区>

荒川区教育研究会 中学校 数学科研究部

1 研究主題

「生徒の理解を深める発問の工夫
～キーワード:問い返し～」

2 主題設定の理由

3年間継続でこの主題で研究を行っている。同じ教材でも発問の仕方によって、活動を生徒の活動は違うものになるので、生徒の理解を深めるような発問を工夫することは大切である。さらに、生徒の発言に対して教師が「問い返し」一言で、さらに深く考えさせたり、振り返らせたりという次の展開へと進めることができるので、本主題を設定した。

3 研究の経過及び内容

(1) 4月:組織作り、研究テーマ、年間計画作成

(2) 研究授業 授業実践・記録まとめ

7月:南千住第二中学校教諭 鬼澤 大地による
第2学年「連立方程式の利用」

9月:第四中学校教諭 岩根 正樹による第2学年
「箱ひげ図」

11月:原中学校教諭 中澤 良太による第2学年
「図形の調べ方」

(3) 1月:まとめ 各校実践報告

4 まとめと今後の課題

令和5年度は、ブロック別ではなく1つの中学校に全員が参観して、研究授業を行うことができた。3回に渡り、各中学校において研究授業の実施・研究協議を行い、授業での記録や発問の改善点をまとめた。また、その記録や指導案を学校間共有にデータで保管し、各校、各回の授業における改善点や工夫した点を区内中学校数学科で常に共有できる環境を整えた。

研究授業では、様々な単元で問い返しを意識した授業を各校展開していた。発問を考える上で、教材を十分に理解して準備することにより、適切な発問や問い返しができることが明らかになった。これからも研究授業、教材研究の実践を重ね、教員同士が学校の枠を超え学びあうことにより、より良い授業を構築できる力をつけていきたい。

<西東京市>

西東京市立中学校教育研究会数学部会

1 研究主題

「主体的・対話的で深い学びの充実に向けた
授業改善-粘り強く、自ら学ぶ生徒の育成-」

2 主題設定の理由

第3観点の「主体的に学習に取り組む態度」を、授業後のふり返しシートや單元ごとのレポート等で評価している教員は、令和4年度よりも増えていた。一方、授業内でどのように見とり、評価するかを確立している教員が少なかったため、令和5年度は本主題を設定した。

3 研究の経過および内容

(1) 5月第1回数学部会

西東京市の数学科の全教員が集まり、現状の課題を話し合った。前述の第3観点の授業内評価に加え、教師主導ではなく生徒主体の授業形式を確立することに、課題に感じている教員が複数いた。11月の研究授業では、これらのことを踏まえたモデル授業を提示することになった。

(2) 11月第2回数学部会

<研究授業:2年生 5章1節「三角形」>

田無第一中学校 2年C・D・E組

杉原 慶 教諭(C組教室 標準コース)

下室 寛昌 主任教諭(D組教室 標準コース)

森田 歩 主幹教諭(E組教室 標準コース)

阿部 惇平 教諭(数学教室 発展コース)

府中市教育委員会の林 達樹指導主事をお招きし、指導・助言をいただいた。

4 まとめと今後の課題

研究授業では、教師は課題を提示するのみで、生徒だけで課題解決を行う授業だった。教室の5か所にヒントカードを設置することで、生徒の動きもあり、協働的な学びになった。また、ヒントカードの置いた場所により、生徒がどこでつまづいているかが把握しやすいという利点も生まれた。協議会でも第3観点のBの評価基準を共有でき、有意義な数学部会となった。

課題は、すべての単元でこのような授業ができるわけではないことである。そのため、令和6年度は主題を変えずに、副題を「-自ら学ぶ生徒の育成をめざした教材の開発-」とした。

令和6年度 東京都中学校数学教育研究会 総会報告

東京都中学校数学教育研究会は、5月11日(土)に、練馬区立開進第二中学校セミナーハウス(松山館)にて、令和6年度の総会を開催しました。令和5年度の事業報告、決算・監査報告及び令和6年度の役員、事業計画、予算が承認され決定しました。

総会次第

- 1 開会の辞
 - 2 会長挨拶・来賓紹介 (会長 榎本 圭志)
 - 3 来賓代表挨拶
 - 4 議長選出
 - 5 議事
 - (1)令和5年度 事業報告
 - (2)令和5年度 決算・監査報告
 - (3)令和6年度 会長・副会長 選出承認
 - (4)令和6年度 役員 選出承認
 - (5)令和6年度 事業計画案 審議承認
 - (6)令和6年度 予算案 審議承認
 - 6 新会長挨拶 (新会長 柳澤 忠男)
 - 7 閉会の辞
- 総会後に東京女子体育大学教授 石出 勉 先生よりご講演をいただきました。(講演の要旨は本誌2ページに掲載しております。)

令和6年度 事業計画

令和6年度の事業として、庶務部、会計部、研究部、調査部、広報部の各部は、会則第5条に従って、下記の事業を行う。

なお、平成23年度より、東京都の研究推進団体の認定に伴い、研究部各研究委員会は、活動の中で、東京都教育委員会指導主事と連携するなどして、「学習指導要領の趣旨・内容を踏まえた指導の改善」に向けた研究推進を図る。

- 1 運営に関する会・講演会の開催
日時:令和6年5月11日(土)14:00～16:45
会場:練馬区立開進第二中学校セミナーハウス
(松山館)
- 2 数学指導技術向上研修会の開催
日時:令和6年8月20日(火)13:30～17:00
会場:新宿区立西早稲田中学校
(東京都教職員研修センターとの連携研修)

- 3 第62回研究発表大会の開催
日時:令和7年2月15日(土)13:30～16:55
会場:新宿区立西早稲田中学校
- 4 研究大会への参加
 - (1)第106回全国算数・数学教育研究(大阪)大会への参加
 - (2)第79回関東甲信静数学教育研究(長野)大会への参加協力
〔教育課程委員会、評価委員会、関数委員会が発表予定〕
- 5 その他
 - (1)上記の他、運営に関する会・理事会などで決定された事項について、本会の目的達成のために必要な事業を行う。
 - (2)運営に関する会・講演会、役員会、理事会、研究発表大会等の記載日程は、以下の通りとする。
 - ①令和6年5月11日(土)
役員会、理事会、運営に関する会・講演会
 - ②令和6年7月11日(木) 役員会
 - ③令和6年8月20日(火)
数学指導技術向上研修会
 - ④令和6年9月24日(火) 役員会
 - ⑤令和6年11月14日(木) 役員会
 - ⑥令和7年2月15日(土)
第62回 研究発表大会
 - ⑦令和7年3月10日(月) 役員会
 - ⑧令和7年4月 役員会(日程調整中)

発行日 令和6年7月10日(水)
発行者 東京都中学校数学教育研究会
会長 柳澤 忠男(板橋区立板橋第二中学校)
編集責任者 広報部長 梶原 孝恒
(東久留米市立大門中学校)
東久留米市大門町2-13-8
042-474-1753